

月刊 アートコレクターズ

Art Collectors'

5
2026

進め、工芸
文化をつかう楽しみ

寄稿

鞍田崇 宮永愛子

対談

四代田辺竹雲齋

高橋賢悟






PERPETUAL FLOW Yurika KINOSHITA

5/16 (土) - 6/14 (日)

作家来廊レセプション 5/16 (土)

16:00 - 18:00

 ギャラリー ためなが

〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-39

月 - 土 11:00 - 19:00 / 日・祝 11:00 - 17:00



www.tamenaga.com



制作風景

「ユリ」2026年 ペンキ、キャンパス 130×162cm

PREVIEW

PERPETUAL FLOW Yurika KINOSHITA

5月16日(土)～6月14日(日) ※11時～19時、日曜・祝日は11時～17時
ギャラリーためなが東京店 港区南青山6-5-39 ☎03(3573)5368



「アイリス」2026年 ペンキ、キャンパス 130×97cm

同ギャラリーがグループ展やアートフェアなどで重点的に紹介してきた若手作家の一人、木下友梨香の個展が開催される。現在の境地を示す力作の数々が描かれた。

画面の中で踊るように描かれた花々はすべて、ペンキを手や腕で押し伸ばして描かれている。花や花のある景色をモチーフにして抽象的なイメージに昇華する表現を、木下は自身の思考を探りながら磨いていった。描き始めた当初の動機は生まれ育った狭い環境に抗い、自分の世界を大きくすることだったという。大学を経て社会に進出し、環境に息苦しさを感じなくなったものの、当初の動機は残り続けた。社会の見方や記憶との向き合い方において変化した自分を改めて表現するために、原体験である

花農家の実家で日々見ていた花の風景を描き始める。幼少期に肌で感じたものの記憶をたぐり寄せるように描こうとする中で、自分の身体の一部を使ってイメージを構築する方法に落ち着いた。

抽象表現の面白さは「よくわからない世界が描かれていること」だと彼女は言う。身近にあった花々を思い起こすと、不思議な存在であったと再認識した。花弁や茎の形は一輪ごとに異なるのに、花弁と茎の「ような」ものがあれば自然と花に見えてしまう。作品を制作する際は図鑑を参照して花の構造を精査に掘むというが、結局のところ、花は捉えがたい存在のままだという。まるで、話せば話すほど分からなくなってくる人間のようにだと彼女は感じている。画家としての道の始まりとなった原体験を振り返るものであり、いつまでも謎を秘めた存在である花を表現することは、小さな世界の殻を破って飛び立とうとした頃の感情や思考を変貌させる作業なのだろう。外部ではなく、自分の中に世界を大きくするための飛躍の種があると感じているのかもしれない。

個々の作品にはモチーフとなった花があり、タイトルにも反映されている。ペンキを腕で描く方法には制約も多いが、花の特徴を損なうこと無く、さらに自由なイメージを生み出している。感覚的に見える作風だが、細かな配慮が各所に隠されている。作家の瑞々しい感覚と巧みに構成されたイメージの両方に新鮮な才能を見て欲しい。

Close Up

月光社 個展 禁教令 2026
5月7日(木)~5月18日(月)



「箱入り娘」テラコッタ 100cm

掲載作品
66万円

テーマ性の強いビスクドール作品をつくる人形作家・月光社の個展。今回は、「中世に完成したヨーロッパにおける一神教支配がもし日本にも起こっていたらどうなっていたのか?」という悪夢的イメージを、50体にのぼる人形を使ったインスタレーションによって展開する。

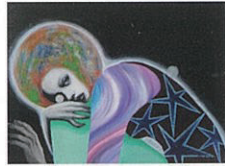
画廊・珈琲Zaroff
TEL.03 (6322) 9032
渋谷区初台1-11-9 五差路

山際マリ 個展—ヒステリア—
5月8日(金)~5月16日(土)

掲載作品
6.985万円

キルト作家を経て、デコラティブカラーージュ、油彩画家として長く活動し、海外にもファンが多い山際マリの同画廊で8回目となる個展。シュルレアリスムを極めた作品群が放つ情念にも似たエネルギーに身を委ねたい。

乙画廊 TEL.06 (6311) 3322
大阪市北区西天満2-8-1 大江ビルディング101



「Balance」2025年
油彩、キャンバス 4号F

宮川あゆこ 個展「罫とメルヘン」
5月22日(金)~5月30日(土)

価格は
要問合せ

レトロな遊園地や街中の奇妙な風景をモチーフとし、現実にはわずかな歪みや異物を加えた絵画を制作する宮川あゆこ。同展では、現実と非現実の間にある違和感を描いた作品を展示予定。

乙画廊 TEL.06 (6311) 3322
大阪市北区西天満2-8-1 大江ビルディング101



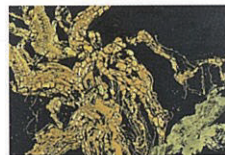
「PLAYHOUSE」2025年
油彩、キャンバス 8号F

菅原健彦 展 RUTEN—流転—
5月23日(土)~6月21日(日)

価格は
要問合せ

昨年62歳で急逝した菅原健彦の追悼展。同ギャラリーとの契約が始まった2011~25年までに描かれた作品約30点が展覧される。悠久の自然に向けられた真摯な視線の結晶。

ギャラリーためなが大阪 TEL.06 (6949) 3434
大阪市中央区城見1-4-1 ホテルニューオータニ大阪1F



「真柏」2024年
金箔、松煙、麻皮紙 89×130cm

知られざるモダニスト—寺田 至
Still Life

価格は
要問合せ

一昨年全国で開催された回顧展をはじめとし、今年も画集第2弾『Still Life』の刊行記念展が愛媛県へ巡回する。日常風景を描いた色褪せない作品群を展覧する。

ギャラリーかわにし TEL.0897 (55) 5768
西条市大町1639-2



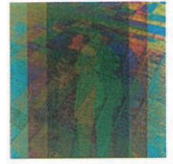
「カンナ」20号F

外山文彦 展 —kind wind—
5月9日(土)~5月17日(日)

価格は
要問合せ

ありふれた風景や何気ない一瞬を切り取り、一見、何の変哲もないと思える映像から版を作り「和紙に刷る」手法で表現した近年の代表的作品群や、白い有孔ボード孔を使った旧作も展示予定。

Gallery MIRAI blanc TEL.03(6699) 0719
大田区大森北1-33-12 ダイヤハイツサウス大森103



「ここにいろよ」2026年
染料プリント、アクリル系塗料、和紙
16.2×15.8cm

吉田幸世 展 “snap”
4月30日(木)~5月5日(火)

価格は
要問合せ

絵具とキャンバスそのものに内在する空間と、スナップ写真が映し出す空間。性質の異なる二つの空間のあいだに位置する絵画を描く吉田幸世。制作途中ならではの魅力を伝えるために未完Tシャツの販売も行う。

アートスペース88 TEL.042 (577) 2011
国立市中1-9-66



「JAWS」油彩、キャンバス 20号P

The LUCKY choices:
作ると生きるの分岐点

5月14日(木)~5月31日(日)

「妊娠・出産・育児」を出発点に多様な制作と生活の関係を紐解くグループ展。宮本香那、田中一太、宮野おかりなど9名が参加する。入場料500円。

KOGANEI ART SPOT シャトー2F TEL.042 (316) 7236
小金井市本町6-5-3 シャトー小金井2F



菅美花「A Happy Birthday」2019年
インク、シボト、プリント

—あさきゆめみし—
第18回 榎並和春展

価格は
要問合せ

5月7日(木)~5月25日(月)

自製の絵具を用いた独自の混成技法で作品を制作する榎並和春の同画廊で恒例の個展。今年は企画画廊「くじらのほね」と合同し、同画廊ではタブローを展示する。

山口画廊 TEL.043 (248) 1560
千葉市中央区春日2-6-7 春日マンション102



「フィナーレ」2026年 混成技法 10号

—夢想の時・Day dream—
北澤茂夫 展

4月23日(木)~5月3日(日)

記憶の断片を再構築し、幻想的・夢的世界を描く北澤茂夫。二紀展に出品した150号・200号の大作7点や小品を含む約30点を展覧する。

町屋アートギャラリー TEL.090 (6532) 4116
龍ヶ崎市砂町5125



「杜の眠り」2025年
油彩、テンペラ 45.5×53.0cm

矢橋頌太郎 展
—暗示される外へ内への無限—

価格は
要問合せ

5月21日(木)~5月30日(土)

螺旋状のモチーフを描き続け、近作ではそれに加えて白い自由曲線を描いている矢橋頌太郎の個展。今展では、油彩作品約20点が展示される。

名古屋画廊 TEL.052 (211) 1982
名古屋市中区栄1-12-10



「MEMENTO」2026年
50号F 油彩、キャンバス

樋口絢女・松浦匡起 二人展
5月13日(水)~5月18日(月)

価格は
要問合せ

デジタル上のモザイク模様を画面に取り入れる樋口絢女と、日本画や日本の伝統的なモチーフを現代的な眼差しで描く松浦匡起。日本美術の伝統と現代アートの融合を目指す2人が、約20点を展示する。

豊田画廊 TEL.0565 (37) 8567
豊田市喜多町2-160 コモ・スクエア ウエスト1F



樋口絢女「鯉」6号F

懸想の眸
5月9日(土)~5月16日(土)

価格は
要問合せ

誰かを想う心のかたちが眼差しに宿る瞬間を描く。ほのかに漂う心の色を感じたい。出品作家は高資婷、宮下舞香、森明衣、柳田真理、山本有彩。各作家4点ずつ出品する予定。

梅軒画廊 TEL.075 (221) 3510
京都市中京区烏丸通四条上ル笋町682



山本有彩「沈黙がやわらぐとき」8号F

Otti Ouri 個展V
『変進』
~Change & Progress~

2026.5/4(日) - 5/9(土)
12:00-18:30 (最終日17:00まで)

銀座中央ギャラリー 第1

東京都中央区銀座1-9-8
奥野ビル4階411号室
TEL.090-2919-8651



「MEMENTO」